

赤相地区の蝶3種の記録

大貝 秀雄

はじめに

姫昆サロンニュース誌上で、クロコノマとイシガキチョウに関する情報がさかんに報じられている。そこで筆者も現居住地である赤穂郡上郡町付近いわゆる赤相地区の採集記録のノートを整理し、報告してみた。非常に古い記録も含まれているが、それだけに興味深いデータと言えるのではないと思われる。

イシガキチョウ

イシガキチョウは現在、西播磨一帯に定着していると推定されている。90年、93年には共に山地の溪流沿いで新鮮個体を目撃しており、これらのデータも定着を裏付けるものとなろう。記録は残っていないが、その前後に上郡町金出地などでも2、3度目撃した記憶がある。一方、1979年の記録は海岸の畑地で観察されたものであり、おそらく本種がこの地方に定着する以前に四国から直接あるいは島伝いに飛来したものであったと推測される。

クロコノマ

クロコノマに関しては、最近、毎年数回は目撃しているという印象をもっているが記録してあったのは表の8例のみであった。もっともこれらの中には、標本があるのにノートに何の記載もないケースもあり、他にも多くの記録漏れがあるに違いない。

最初の記録は1989年の目撃であった。この時の状況はよく覚えていないが、以前から沖繩、屋久島で本種とウスイロコノマは見なれていたので記録の信頼性は高いと思われる。以後、毎年記録が続いているが、筆者は1988年に赤穂郡上郡町に転居して、それ以来、上郡町の各地を調べるようになった。それと同時に本種が確認されはじめたので、上郡ではクロコノマは以前から普通種だったのだと思い込んでいた。しかし、そうではなく筆者が上郡町を調べはじめた時期が、本種の上郡町を含むこの地方での定着時期と、たまたま丁度一致していたということだったのでないかと最近考えを改めている。

ヒメヒカゲ

最後にヒメヒカゲである。筆者の手元には1頭の少し翅の破損した標本があるだけで、あとにも先にもそれらしい姿を見たことさえない。採集地は山すその植

林されて間もないオープンランドに近い環境の所であった。それはあまりに無雑作に採集できたし、当時、筆者は大阪から当地方に着任して1年しか経過していなかったの、この地方にはヒメヒカゲが多産するのだという錯覚を抱いたことを覚えている。そしてそれがとんでもない大錯覚だったと気付くのに、多くの時間を必要とはしなかった。

赤相(穂・魁・土)地区の蝶3種の記録

イシガケチョウ	1 sp(目撃)	赤穂市坂越大泊	16-VI-1979	柘田和則
	1 sp(目撃)	赤穂郡上郡町野桑	16-VI-1990	大貝秀雄
	1 sp(目撃)	" 旭	07-VIII-1993	"
クロコノマ	1 sp(目撃)	赤穂郡上郡町野桑	21-V-1989	大貝秀雄
	1 ♀(秋型)	"	16-VI-1990	"
	1 ♂(夏型)	" 山野里	01-IX-1991	"
	1 ♀(秋型)	" 野桑	16-V-1992	"
	1 ♀(写真撮影)	" 岩木	12-IX-1992	"
	1 sp(目撃)	相生市矢野楯	03-VI-1993	"
	1 ♀(夏型)	" 釜出	31-VI-1993	"
	1 ♂(秋型)	" 瓜生	07-V-1995	"
ヒメヒカゲ	1 ♀	赤穂市周世	27-VI-1976	大貝秀雄

追補：相生市矢野釜出において1995年5月20日、筆者は1時間足らずの間に3個体のクロコノマを目撃した。